

回想の牧野晋先生

麗澤大学名誉教授

林 英 輔

牧野晋先生が急逝された報があったときは、目の前が真っ暗になった。情報システムセンターなど、本学の情報環境の今後をすべて牧野先生に託した気持でただけに……。非常に辛い。牧野先生は職場の同僚であるとともに、親しい友人「牧野さん」であった。今に至るまで牧野さんの思い出が、頻繁に蘇ってくる。牧野さんとの出会いは我が国のインターネットの創世記、しかも、社会の先頭を切って、大学のコンピュータネットワークがインターネットに置き換わろうとしていた時期であり、関東甲信地域のある大学のネットワーク運用担当者が東大大型計算機センターに集まって、インターネットのシステム導入のための議論を活発に始めた頃、'90年から'92年にかけての時期であった。

上記の若きネットワークワーカー達は大変活発で、しばしば鋭い質問と問題提起で私を困惑させることがしばしばであった。一橋大学情報処理センターの牧野さんは、いつも活発に発言されるものの、誰が考えても当然の疑問を穏やかに切り出してこられる人であった。何時しか、そのような会合のまとめ役の私は牧野さんを頼りにするようになっていった。東大を中心にした各大学を接続するインターネット網 TRAIN の試験運用が始まると、牧野さんにいろいろな役割を分担していただいた。穏やかな人柄と配慮のきいた物言いは多くのネットワークワーカーの信頼を集め、牧野さんを中心とする人の繋がりが形成されていった。TRAIN の活動は7年続き、大学が、社会の中で先頭を切って運用事例を示してゆく歴史的役割を終えて TRAIN を解散することになったとき、培った情報交流と人の繋がりコミュニティを残そうとなったとき、協会 A=TRAIN を発足することが決まり、牧野さんは皆に押されて事務局長に就任した。そのときの人の繋がりは今でも残り、先日開かれた「牧野さんを偲ぶ会」では、その頃の顔ぶれが揃った。みな、口々に牧野さんを惜しんだ。

私が本学に着任してからは、先の牧野さんに始終お世話になり、多くの難しい場面で助けていただいた。いつも感じていたことは、牧野さんは、大変魅力のある大学教員であることだった。講義などで「学生に理解させるにはどうしたらよいか」など、具体的なノウハウや勘所を把握しておられること、それに、体育会系の「のり」で、学生を叱り、褒め、てきぱきと行動を指示していたのを見るにつけ、「すごい」感じていた。

研究者仲間として一緒に仕事をした時の思い出は、総務省の調査研究プロジェクトで、館山地区で、無線ネットワークの実証実験をやった頃である。ネットワーク媒体に無線を使用した場合の到着性、使い勝手、安全性確保、地域やホテル内でのユーザビリ

ティーなど、会社の技術者などの民間人の実験スタッフをまとめて、システムを構築し、運用する実験で、技術責任者をやってもらったが、使い易く、管理も容易なシステムを設計し、その作業でも、無理のない実に見事な采配であった。このプロジェクトでは、総務省から発表された報告書の他に、牧野さんを著者に含む学会研究報告が2報発表されている。また、列島縦断ギガビットネットワーク JGN と呼ばれる高速の研究用ネットワークの千葉県アクセスポイントが本学内に設置されたから、これを使った実験の試みを何度か実施して、そのための技術運用や学生指導を牧野さんに受け持ってもらい、地域ネットワーク研究の分野で麗澤大学を多くの人に記憶させることができたのも牧野さんのお陰である。一方、教育でもそうであったが、実に仕事がよく出来る人であり、そのために、牧野さんのところには、常に仕事が集中するように見受けられたが、これが牧野さんご寿命を縮めたのかもしれないと思うと、実にやりきれない。